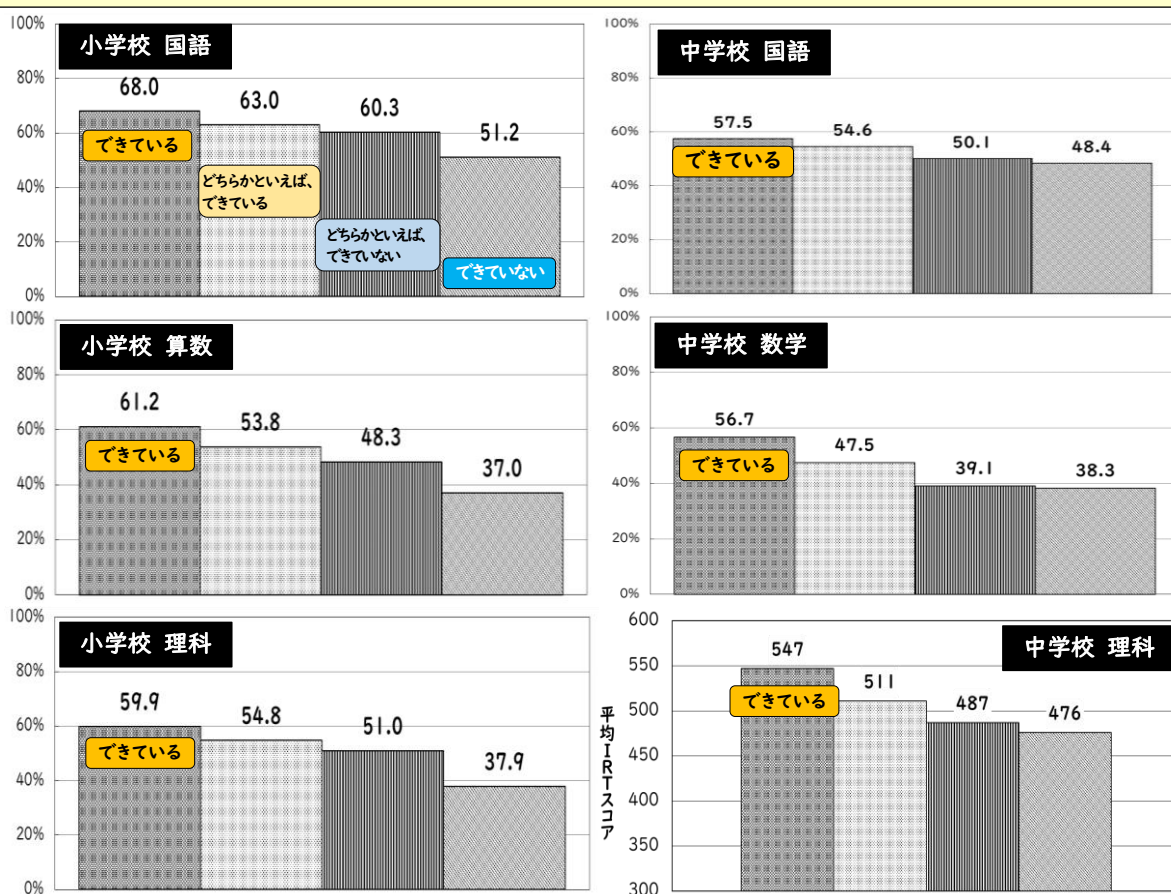


## 6 あつぎの学びの充実・改善のヒント

【児童・生徒質問と教科の平均正答率とのクロス集計分析結果より】

質問 16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



上のグラフは、学習習慣、学習環境等に関する児童・生徒質問調査（質問 16）と教科の平均正答率・平均 IRT スコアとのクロス集計分析結果を表したものです。どの教科においても、肯定的な回答をしている児童・生徒ほど平均正答率・平均 IRT スコアが高いことがわかります。このことから、主体的な学習の調整をすることができていると考える児童・生徒ほど平均正答率・平均 IRT スコアが高くなる傾向があることが考えられます。このような相関関係は、下記の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する児童・生徒質問調査と教科の平均正答率・平均 IRT スコアとのクロス集計分析結果においても見ることができます。

質問 31 5年生（1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

質問 36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

質問 37 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか

資質・能力の確実な育成に向けて、学習指導要領には「社会に開かれた教育課程」の実現が重要であり、児童・生徒が、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「指導・生徒一人一人の発達をどのように支援するか」、「何が身に付いたか」、「実践するために何が必要か」の視点から、教育課程に基づく日々の教育活動を展開することが示されています。